

知事と区市町村長との意見交換会(東村山市)

令和2年10月23日(金)

16時40分～17時00分

○行政部長 それでは意見交換を始めさせていただきます。

はじめに知事からお願いをいたします。

○知事 渡部市長、御苦労さまでございます。

コロナとの戦い、続いているところでございますけれども、感染拡大の防止とそして社会経済活動の両立をとということで、ウィズコロナの道筋を今描きつつあるところでございます。

都も今、構造改革等も行いつつ、新しい日常、サステナブル・リカバリーを目指していくということから、それらを梃子にしまして、新たな視点でもって長期戦略を策定するという段階でございます。

今日は現場のお声等を聞かせていただきながら、長期戦略、また、喫緊の課題等に共に連携していくために現場の話を伺わせていただければと思います。よろしくをお願いします。

○行政部長 それでは渡部市長、御発言をお願いいたします。

○東村山市長 小池知事におかれましては、お忙しいところ毎年都内の区市町村長の意見聴取ということで、このような場を設けていただきまして、大変ありがとうございます。

また、コロナが終息しない中、今、御発言ありましたように、コロナの感染拡大防止と社会経済活動の両立ということで、自ら先頭にお立ちになって陣頭指揮取られていることに、都民の一人として大変心強く思っているところでございます。

是非今後も健康に御留意いただきながら、2期目、増々充実して頑張っていただければと思っております。

私の方から今日は、今、東村山市が進めておりますスマートシティの取組について若干御説明申し上げ、東京都の御支援等を賜ればなということで、2点触れさせていただきたいと思います。時間がないのでかいつまんで説明させていただきます。

現在、東村山市ではSociety5.0、データ利活用型スマートシティの推進ということで、まちの価値、ひとの活力、くらしの質の向上を目指すということで考えながら、もう一つはやはりポストコロナ時代の要請にも応え、街のレジリエンス向上を目指すということで、具体的にデータ利活用型のスマートシティを目指して、今年度、国の補助事業に手を挙げさせていただいたところ、総務省の方の事業に何とか引っ掛かることができ、採択をいただきました。

これはもう知事、よく御案内のとおりで、下の方が物理層というリアルな空間、その間をいろいろなセンサーをつないで、上がデジタル空間で、サイバー空間とフィジカル空間を融合することによって、より良い暮らしの質につなげていくというのが、Society5.0の考え方だというふうに理解しておりますが、こうしたことを基礎自治体レベルでも取り組

んでまいりたいというふうに考えております。

東村山市では多彩な、多様な連携を促してハードルを乗り越えていこうということで、政府のスマートシティ関連事業等を活用して、今年度、これから MaaS 等の自主実験を行う予定にいたしております。

それから共通インフラとなる都市 OS を公民連携や市民協働で支える仕組みを作ろうということで、現在、市内事業者等々とスマートシティ協議会、それから公民連携地域プラットフォーム、これは市内の企業さんだけではなくて、市内に支店を置いている金融機関だとか、大手の企業さんにもある程度お入りをいただいて、仕組み作りを進めております。

都市 OS にデータを収れんする場合、基礎自治体レベルでのデータだけではなかなか効率的なことができない。市内連携や公民連携のみならず、やはり膨大なデータを持っておられる東京都とやはり連携をする、あるいは都内の全ての区市町村と連携して東京都版の都市 OS のようなものを構築することが、東京都におけるスマートシティ、あるいは Society5.0 を進めていく上で非常に重要ではないかというふうに考えております。

そこでもお願いでございますが、東京都との連携として、東京都がやはり是非主導して都内の区市町村に呼び掛けていただいて、東京都版の都市 OS を是非確立をしていただき、そこに都内の区市町村が乗っかるような形で、そこに都内の様々なデータ、民間企業も含めて収れんすることによって、各事業所や自治体から集まってきたデータで、様々な政策立案や、新たなサービス、新たな経済活動の種をここから見い出すことができるのではないかなど、そのように考えております。是非その辺について、今後東京都としても御検討いただきたいと思っておりますし、また、基礎自治体、当市のような小さな自治体で Society5.0 の実証実験を行うのは、国から補助金もなくて、なかなか財政的に厳しいので、その辺についても何か東京都の御支援をいただければ有り難いかなど、そのように考えているところでございます。

次に、行政のデジタル化によります業務継続性の確保ということで、当市では働き方改革を進め、定型的な業務については RPA、AI-OCR の導入を既に進めさせていただいて、今まで手作業で行っていた課税業務について、一部 AI-OCR の読み取りで、あとは RPA で自動処理をするということを既に導入を昨年度させていただいて、これまで年間 1,000 時間以上の時間を削減することに成功しております。

また、コロナ禍を受けまして、サービス利用型テレワークソリューションの導入ということで、今年の 4 月の緊急事態宣言に伴いまして、職員の交代制の在宅勤務も全庁的に実施をいたしました。当市の場合は、まだ限定的な ICT 環境でありますので、生産性の低下等に課題がございました。

ただ、今年の補正予算、6 月に組ませていただいて、9 月から一応、僅か 3 か月でテレワークシステムを導入し、在宅で勤務をできる体制、取りあえず 9 月から 20 台稼働して、今年度中には 100 台稼働ということで、今日隣に控えております原田次長も先週、テレワークを自宅で行って、非常に快適だったと申しておりました。

これから更には様々な行政のデジタル化、それから市民からの様々な手続、相談等につ

いても、オンライン化、デジタル化を進めてまいりたいと考えております。

現在、東京都においてもデジタル化、オンライン化を進めておりますので、こちらについても一緒に進めるとともに、やはりなかなかこのオンライン化はお金が掛かるので、できれば東京都の後押しもいただければなということ、予定していた時間がちょうどきたそうでございますので、この辺で終わらせていただきたいと思います。何とぞよろしくお願いたします。

○行政部長 どうもありがとうございました。

それでは知事からお願いをいたします。

○知事 コロナ禍でステイホーム等々を経て、改めてこの東京、日本がデジタルトランスフォーメーションを加速させなければならぬということを如実に示し、また、そのことをみんなで意識共有したところかと思えます。

都としまして、都内の市区町村、それから国に関係する民間企業、大学等の学術機関やNPO等と連携しまして、様々なデータを流通させるための基盤となりますデータプラットフォームの構築や、また、それを活用して分析したり、シミュレーションを可能とするような、デジタルツインと呼んでますけれども、こちらを実現する等、正しく Society5.0 を目指して、スマート東京の実現を構築しつつあるところであります。

公共データや民間データというのは、本当に新しい 21 世紀の資源と言ってもいいわけがあります。利用する側が使いやすいような形式で連携をさせることで、官民連携データプラットフォームの立ち上げを目指して、今、準備を進めているところでございます。

こうやって、既に現実にはいろいろな試みをやっておられるという皆さんの知見や経験、職員の方々の実感等も参考にさせていただきながら、共に連携し、効率的に、効果的に進めていきたいと考えております。

また、ウィズコロナでの業務の継続性やポストコロナの観点から、行政手続、職員の働き方等、行政のデジタル化の加速が求められているわけで、それを先週ですか、実際にさったということでもあります。

この行政のデジタル化については、令和元年度から、都と市区町村の更なる連携強化、また、ICT の導入を牽引していく人材の育成、それを目的とした勉強会も実施をいたしているところであります。

そしてこのデジタル化については、都から市の方に権限移譲等をしております行政手続についても受付件数が多いことでしょうか、集中的にデジタル化の取組を実施することとしております。

手続ごとの実態の把握であるとか、課題の検証を行った上で、行政手続のデジタル化に向けた取組の方向性を整理しまして、順次実施をしていきたいと考えています。

今、ずっと申し上げてるのは都政の構造改革、5つのレスということと、それからより分かりやすく、かつては有楽町にあった都庁が新宿に引っ越して来たのが昭和から平成への引っ越し。それで今、平成から令和の引っ越しはバーチャルへの引っ越しということを申し上げています。

それは市民にも同じような感覚を持っていただければいいのかなと思いますし、我々が持っているデータというのは、実はとても重要なもので、かつそれをいかして、更にそれを民間に活用してもらうことで経済社会の活性化につなげていく、そんなことを狙っていききたいと思います。

そしてまた、前に市長がおっしゃっていたと思うんですけど、サテライトオフィスを作って、非常に女性の雇用がそこで確保できたという話もありますよね。

よって、これからの多摩地域は、特にそういう意味でポテンシャルは非常にあるのではないかというふうに思いますので、いろいろな試みを積極的に取り組んでおられるので、また都としても、様々な面での連携をさせていただければと思います。

○行政部長 それでは渡部市長、今のお話を受けていかがでしょうか。

○東村山市長 大変心強く思ったところでございます。

今度の東京都市長会の全体研修会でも、宮坂副知事さんにお出ましいただいて御講演をいただくということで、多摩地域全体で行政のデジタル化、あるいはそれぞれの街のスマートシティ化といったことを進めているところでございますが、先ほど申し上げたように、やはりデータの利活用については、単独でやるよりは相互に連携をする、あるいはオール東京で、東京都も加わって進めていくことが非常に重要だというふうに認識いたしておりますので、小池知事の強いリーダーシップで是非スマート東京を目指して、我々も頑張っ

てまいりますけれども、是非よろしくお願ひしたいと思っております。

○行政部長 どうもありがとうございます。

それでは最後に知事からお願いをいたします。

○知事 ありがとうございます。

コロナでいろいろ課題も浮き彫りになり、むしろそれを積極的なチャンスに活かしていくというお話でございました。

正しくそのとおりでありまして、いろいろ課題も多いところではございますけれども、是非ともそれら喫緊の課題のコロナ対策を含めて、長期の戦略も描いていきたいと考えておりますので、これからもどうぞよろしくお願ひいたします。ありがとうございました。

○行政部長 それでは以上で終了させていただきます。

本日は御多用のところ、ありがとうございました。